

友だちの中でいきいきと活動する子

倉 真理子

はじめに

Y児との出会いは、昨年小学部に入学したときに始まる。次はどんないたずらをしようかと、目をきよろきよろさせていたY児。大人の出方をしっかりと観察しながらいたずらに没頭してやめようとしないY児にどう対処したらいいかと頭を悩ませたものである。しかし、いたずらに没頭する集中力やいたずらを探している好奇心が、Y児をどんなに発達させているかを知るのにそう長くはかからなかった。自分の好きな活動にいきいきと取り組んでいるY児の姿を見て、次の発達の課題を見据えながら共同生活者として、いきいきと活動できる場を保障していかなければならないと考えた。

以下その実践について述べてみたい。

1. プロフィール

(1) 生育歴

- 昭和58年10月19日生 7歳11か月 小学2年 男子 ダウン症
- 未熟児 (34週) 体重2,300g 首のすわり9か月 歩行26か月 眼球振盪あり
- T療育園通園6か月～2歳過ぎ M保育所入所3歳頃 本校入学6歳5か月
- 家族は両親と兄 (中学3年生) と妹 (保育所年少組) の5人家族。自営業のため昼の時間が比較的自由になり、本児との関わりを多く持っているため、手指の力をつけるための道具等を工夫する等本児のためのよい生活環境を作るような努力をしている。大変協力的で熱心である。

(2) 諸検査による実態

- 遠城寺式発達検査では3歳程度の発達を示す。日常生活の中で行っている基本的な生活習慣や手の運動では数値が高くなっている。言語に弱さがある。
- MEPAのプロフィール表からみると運動感覚の分野では第5ステージ (37～48か月)、言語や社会性の分野では第4ステージ (19～36か月) を通過中である。クロスインデックス表からも言語社会性領域の身体意識項目での落ち込みがみられる。

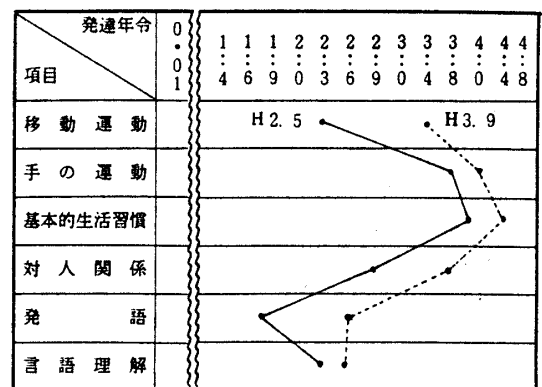


図1 遠城寺式乳幼児発達検査

- からだの輪郭表では、昨年度まだ出来ていなかった3～4歳の内容を本年度ではほぼクリアし、4～5歳の内容もできだしている。また、現在5～6歳の課題に挑戦している。(P51参照)

(3) 行動特性

- 周りの人に進んであいさつしたり人の世話をしたりして、人との関わりを持とうとする。

- ・自分の思いがあり頑固にそれを通そうとする面もある。
- ・その場の楽しそうな雰囲気を感じたり慣れたことに対しては意欲的に取り組むことが多い。
- ・歌ったり踊ったりすることを大変好む。

2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

① つけたい力

- ・取り組みの意欲と集中力、先を見通して自分で取り組む姿勢
- ・友だちの世話をしたり遊んだりして友だちと関わる社会性
- ・自分の気持ちを伝えることばや絵の表現力
- ・自分の身体を自由に操れるような身体意識能力の向上

② 指導仮説

自分の周りの環境に対して積極的に働きかける(動くことを楽しむ)ことによって、自分で体得し発達していくタイプの子どもである。また、自我も育ちつつある。経験があることについては見通しを持って取り組んだり、相手の言うことを理解してさっと行動できる力もついてきている。そこで、

できるだけじっくり取り組めるような環境を整える

次にある楽しみを見通す

ことによって、本児は自信を持ってよりいきいきと活動できるようになっていくと考えた。

(2) 指導方針

- ・できるだけ本児の思いや本児のイメージを大切にしていく。
- ・取り組みやすいような雰囲気や集中できる場を保障していく。
- ・見通しを持って主体的に取り組めるように、繰り返しの指導や繰り返しの取り組みを大切にしていく。

3. 指導の実際

(1) 集中できる場を保障していった実践例

① 生活単元学習の中で(作る学習を中心として)

取り組みにあたっての手だてとして、㉞じっくり教師や友だちのやり方を見させ、性急に取りかかりを促さない。㉟取り組み始めたら、満足できるまで時間をしっかりかけさせることを心がける。

以下その主な場面と様子である。

月	単元	作業内容	Y児の様子
4月	かざりづくり	掲示のチューリップを玉葱・ピーマンを使って型押しで作る。	人より遅れて取り掛かったがそろそろ止めようの合図があっても止めず、絵の具がなくなるまで押していた。
	こいのぼりづくり	つやがみに太マジックで直線を直角に引いたものを準備した。缺で直線を切って四角形を作り鱗にする。こいの形の台紙にはり、こいを作る。	集中して直線を切った。約12枚切ったがその間切り刻んでしまった鱗もあった。できた四角形を他のところに移動させたり、目的を言ったりしてあまり細かく切らないようにした。台紙のこいに縦横等間隔に鱗をはった。

5月	カレーづくり	人参の皮をむく、じゃがいもを切るという作業やルーを入れる作業をし、カレーライス作りに参加する。	人参がなくなるほど皮むき器で皮をむいた。途中もう止めて切ろうという言葉かけに「だめ」と答え、また作業を続行した。作業を終え満足そうな表情であった。
6月	クッキー作り	教生の先生とクッキーの生地を丸めたあとつぶして煎餅型のものを作る。	 <p>始め煎餅型を予定していたが本児の要望で団子のクッキーになった。熱中して取り組んだ。</p> 
7月	背景づくり	たなばた発表会の劇「大きなかぶ」の背景の絵ポスターカラーでぬる。	 <p>本児は空の部分を担当していた。かなりダイナミックに腕を動かして色塗りに取り組んだ。</p>
9月	バナナ作り	合同学習で運動会の「おさるのかごや」に使う道具作りをした。筒型のダンボールに色画用紙をちぎってはバナナの木作りと、丸めた画用紙にビニールテープをはってバナナ作りをする。	 

② 遊びの中で

洗濯挟みを使った遊び…家庭で行っていた遊びを自由な時間に教室に持ち込んだ。厚みのある箱の淵やタオルかけに挟んだり、つないで長い紐のようにしたり、並べたりして遊んでいた。また、右の写真のようにシール遊びと結びついた遊びにも発展していった。その後、箱にシールを一直線に並べる遊びを本児がみつけて遊んでいた。



③ 取り組みが終わって

集団生活の中で本児の取り組みを充分満足させることは、他児との関係でそう容易なことではなかった。しかし、集中して取り組んだ後の本児は満足しきった表情になっていた。このような集中した取り組みの中で、意欲ばかりではなく、例えば、真ん丸にまるめられた団子や鉄を使っている巧みな手の動きに技能の向上が認められた。

(2) 見通しを持たせていった実践例

——行事をめざした生活単元学習を中心にして——

次のような方法で学習を進め行事に見通しを持たせていった。

- 行事まで「あと〇日」と数えるカレンダーを作り、朝の会で毎日数えさせた。
- 行事について描いてある絵カードを示しながら、毎日話をしたり本児に話させたりした。
- 行事についての話や歌を録音したテープと行事のしおりを、家に持ち帰らせて毎日聞いたり読んだりさせた。
- 単元全体を同じような流れで進めていき、例えば お母さんをよぼう → 案内状を作ろう と自分たちの問題を解決するパターンを作っていた。

このように、学習を進めていくことによって、誰に運動会に来てもらうかをどんどんと自分で発表したり、案内状で使う道具をさっと取ってきたりできた。また、たなばた発表会の劇「大きなかぶ」で本児は一番最後に出てくる鼠の役であったが、全員の台詞を覚え、舞台の袖でずっと台詞を言っていたばかりではなく友だちに対して、次は君の番だから出るようにと指示していた。

行事や学校生活に見通しがついてきたことによって、自信を持って大きな声で話したり自分の訴えを主張し主体的に行動したりすることが増えてきた。それと同時に友だちとの関わりも増えてきた。

4 考察 表1 からだの輪郭表 (1部抜粋)

上記の実践	項目	3歳～4歳	4歳～5歳	5歳～6歳
のなかでも述べたようにやりたいという意欲ややり抜いたという経験を支えとして、本児の確かな成長の手応えを感じている。次の観点で変容の様子を述べてみたい。	手指の機能	△きつねをつくる ○同じ図形を合わせる ○手首の関節を動かして書く	○点線をなぞってかく ○1～5指の指あわせをする ○片手の指を一本ずつ折る	△手を交互に開閉する △正確にぬりえをする △両手の指を一本ずつ折る
	道具の操作探索	○糊をつけてはる ○粘土でせんべいを作る ○円形の形の粘土を切る △折り紙を筒にまるめる	○きれいな団子を作る ○十字を書く ○両手で水をすくって顔を洗う △鉄で丸や三角を切る	○線に沿って連続に切る ○ちりとりでゴミを取る △すみに気をつけて糊ではる △掃除機を使う
	着脱被服	○紐をほどく △真結びに結ぶ	◎前のボタンをはめる ◎上着をひとりで着る	◎脱いだものをたたむ △袖口襟元のボタンをたたむ
	食事調理	○箸をつかう ◎殆んどこぼさないで食べる	◎大きな物を箸で摘んで食べる ○食器を洗う	△缶ジュースの口を開ける △ガスに点火する
	言語	◎相手の話を終わりまで静かに聞く	○自分の名前の文字が分かる ○電話で話をする	△自分の住所・電話番号を言う △簡単な単語を視写する
	遊び道具	△三輪車をこぐ △ブランコに立っている	○ジャングルジムに一段のぼる ○滑り台に逆からのぼる	△平均台の上を後ろ向きに歩く ○ジャングルジムのでっぺんにのぼる
	運動	○片足で2～3秒たつ ○水中でばた足をする	○水の中をはう ◎階段の2～3段目から飛びおろる	◎ろく木を上り下りする △片足ケンケンをする

△…まだできない内容 ○…昨年(H2.4)は出来なかったが今年(H3.9)は出来た内容 ◎…以前からできていた

① からだの

輪郭表から 表1で示すように昨年4月に比べることが増えてきていることが分かる。

② 生活場面の変容 要求の言葉や自分の思いを伝え、共感しようとする言葉が増え、会話が豊かになった。一日の生活や行事に対して、見通しを持ち進んで取り組む態度が見られた。

③ 描画における変容 イメージが膨らんでいって、プールやシャワー等自分が経験したことを線画で表現し始めた。

5 今後の課題

じっくり取り組む場を保障し活動を楽しみきらせることは、本児にとって大切な手だてであった。しかし、次の段階として、周りの状況を判断し、自分で納得して次の行動に移ることも大切である。そして、指導者は次のステップを準備しながら、強制することなく移行できるような働きかけも必要であると考えられる。